

報告書抄録

ふりがな	
書名	
副書名	
巻次	
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第148冊
編著者名	
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番03 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m <sup>2</sup>	
だいにそとかんじょう どうろかんけいい せきながおかきょう あとうきょうだい きゅうひやくはち じゅうよん・きゅう ひやくはちじゅうは ちじ・いがじいせき  京都第二環状道路関 係遺跡 長岡京跡右 京第984・988次・伊 賀寺遺跡	ながおかきょう ししもかいいん じいがじ  長岡京市下海印 寺伊賀寺	26206	37・38	34° 54' 57"	135° 41' 12"	2009090 ～ 20091013、 20091022 ～ 20100122	870	道路建設
みのやまはいじかそ ういせきだいはちじ  美濃山廃寺下層遺跡 第8次	やわたしみのや まふるでら  八幡市美濃山古 寺	26210	44	34° 50' 44"	135° 43' 15"	20011206 ～ 20110304	1,500	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
京都第二環状道 路関係遺跡 長岡京跡右京第 984・988次・伊 賀寺遺跡	集落跡	縄文	溝・竪穴式住居跡・土坑・ 柱穴・土壇・崖	縄文土器・石器・玉類	玉作り関係遺物
	集落跡	古墳	溝・落ち込み状遺構	土師器・須恵器	
	集落跡	長岡京期	溝・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	
美濃山廃寺下層 遺跡第8次	集落跡	縄文  弥生  奈良・平 安 中・近世		石器  弥生土器・石器  土師器・須恵器・瓦  土師器・陶磁器	尖頭器

所収遺跡名	要 約
京都第二環状道路関係遺跡 長岡京跡右京第984・988次・ 伊賀寺遺跡	<p>今回の調査では長岡京期と古墳時代・縄文時代の遺構を検出した。長岡京期の当地は右京八条三坊十六町にあたり、東西方向の溝・柱穴を検出した。この溝は東で7度北に振り、長岡京の条坊計画と方位を異にする。周辺では同時期の掘立柱建物跡や溝などが確認されており、長岡京の条坊関連遺構もしくは、宅地を画する溝と想定できる。古墳時代の遺構としては、後期の溝と落ち込み状遺構を検出した。周辺の調査では同時期の竪穴式住居跡が多く検出されているが、今回の調査では集落に直接関連する遺構は検出できなかった。縄文時代では、中期の北白川C式、後期中津～四ツ池式、北白川上層式3期、元住吉～宮滝式、晩期の滋賀里Ⅲ式の竪穴式住居跡や土坑、ピットを検出した。小泉川流域では近年多くの縄文集落が調査されており、集落の移動についての資料が蓄積されつつある。今回の調査では、特に後期前葉の崖S X 199から北白川上層式3期の土器が大量に出土した。今までの調査では同時期の竪穴式住居跡は確認されておらず、周辺に竪穴式住居跡が分布しているものと判断され、伊賀寺縄文集落内の時期別の変遷を考える上で重要な知見を得た。</p>
美濃山廃寺下層遺跡第8次	<p>明確な遺構は検出できなかったが、縄文時代のポイントや弥生時代の土器及び石器の出土により美濃山廃寺下層遺跡の一端を明らかにできた。奈良～平安時代の遺物は、美濃山廃寺との関係でとらえ得る遺物である。</p>